

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

昨日（15日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、女岳^{めだけ}付近の噴気や地表面等の状況に特段の変化はなく、男女岳^{おなめだけ}付近にも特段の異常は認められませんでした。

秋田駒ヶ岳では、3月6日から低周波地震の発生が続いており、火山活動の高まりを示している可能性があることから、今後の火山活動に関する情報に留意してください。

なお、女岳周辺では地熱活動が続いており、火山性地震の増加が時々みられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-①）

昨日（15日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、女岳の山頂北部、北東斜面及び南東火口の地熱域や噴気の状況に大きな変化はなく、男女岳付近にも特段の異常は認められませんでした。

東北地方整備局が設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で経過し、これまでと比較して特段の変化は認められません。

・地震や微動の発生状況（図3-②～④）

秋田駒ヶ岳では、低周波地震¹⁾が2月16日に1回発生した後、3月6日から本日（16日）10時まで、合計7回発生しました。低周波地震は概ね振幅の小さいもので、震源はいずれもカルデラ付近と推定されます。

男女岳山頂付近を震源とする火山性地震が2017年7月以前と比較してわずかな増加傾向が認められていますが、1月以降は少ない状態で経過しており、今回の低周波地震発生に伴う特段の変化はみられません。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況

火山活動によると考えられる変化は認められません。

1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

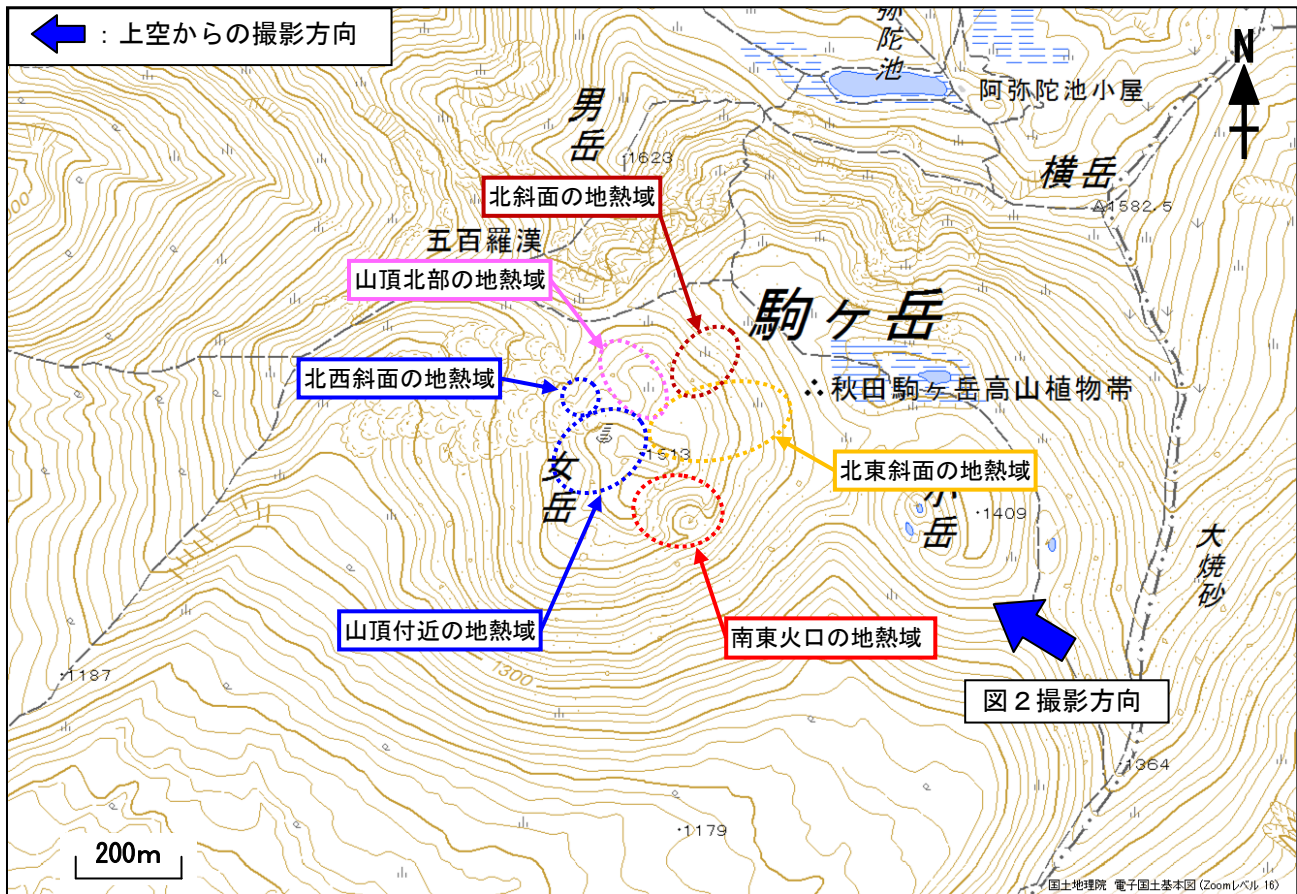


図1 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布及び写真と地表面温度分布²⁾ 撮影方向

2) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

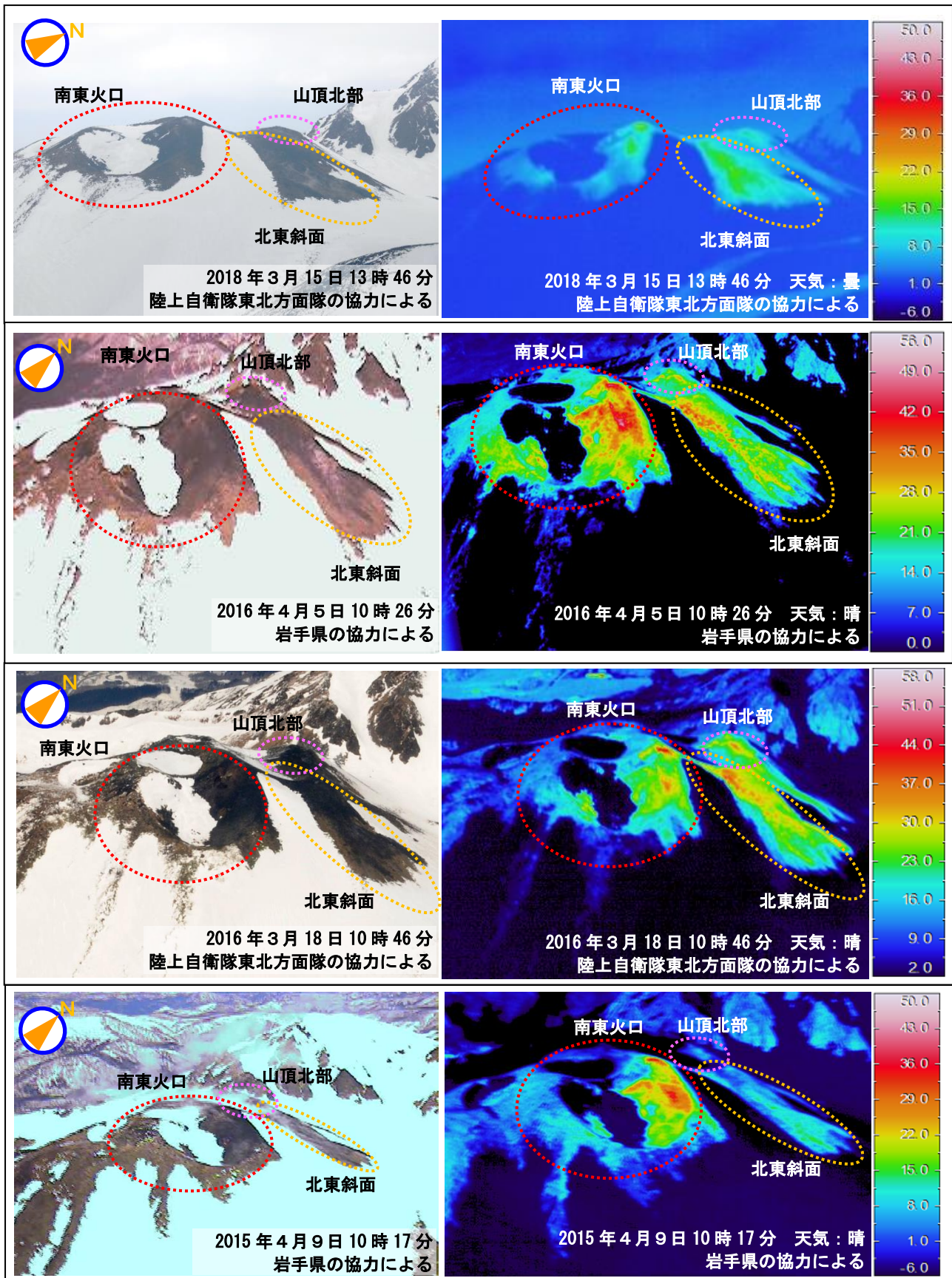


図2 秋田駒ヶ岳 上空からの女岳山頂北部、北東斜面及び南東火口の状況と地表面温度分布

- ・女岳山頂北部、北東斜面及び南東火口の地熱域や噴気の状態に大きな変化は認められませんでした。
- ・図中の破線の色は、図1の破線の色に対応します。

